

子どもの健康と病気の予防⑰

- 咽頭結膜熱(プール熱) -

小宅医院 小宅民子

咽頭結膜熱(プール熱)はアデノウイルスによる感染症です。流行時期は夏で、プールでの感染があることから「プール熱」とも呼ばれます。今年は、9月頃から10月以降まで大流行しました。この背景として、新型コロナウイルスの感染対策が強化され、2020年から昨年まで、ほとんど流行が見られなかったことが考えられます。抗体を保持している人が少なく、さらに新型コロナウイルスが5類感染症となり、行動範囲が広がったことも要因の一つと考えられます。

潜伏期間は5〜7日です。飛沫感染(せきやくしゃみなど)や接触感染(ウイルスのついた手や鼻をさわるなど)でひろがります。発熱、咽頭炎(のどの痛み・発赤)、結膜炎(目の充血・めやに)を3主症状とし、その他、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢などが生じます。症状は1〜2週間でおさまります。

アデノウイルスは迅速キットによる診断が可能で、のど

を綿棒でこすって検査を行います。10分程度で結果が判定できます。

特別な治療はなく、対症療法(症状をやわらげる治療)をおこないます。十分な休養と水分補給が重要です。のどの痛みがあり食事がとりにくいときは、のどごしの良い食べやすいものを食べさせましょう。

感染を予防するには、手洗い、うがい、こどもが触れるおもちゃやドアノブなどの消毒が有効です。プールの際は、プールの前後のシャワーと、プールの後のうがいなどを徹底しましょう。タオルは個別に使いましょう。

感染がわかった場合は「出席停止」になります。発熱や眼球結膜の充血、のどの痛みなどの主要症状が無くなってから2日間経過すると、登園、登校は可能です。



咽頭結膜熱(プール熱)の5つのポイント!

- ① 潜伏期間は5〜7日、飛沫感染や接触感染でひろがる
- ② 発熱、咽頭炎、結膜炎が3主症状
- ③ 特別な治療はなく、対症療法(症状をやわらげる治療)が中心
- ④ 感染を予防するには、手洗い、うがい、プールの前後のシャワーが有効
- ⑤ 主要症状が無くなってから2日間経過すると、登園、登校は可能

